

令和元年11月29日 第7号 (No.410)

二小だより

ニセコ町立ニセコ小学校 TEL44-2252

教育目標

羊蹄の大地に 豊かな心で

たくましく未来を拓く ニセコの子

○つよく

○なかよく

○かしこく

“コーチングということ”

校長 飯田 富男

先日、町P連の講演会が開催されました。「豊かな心を育てる子どもへの関わり方」との演題で、北翔大学の学長、山谷敬三郎先生が講演されました。ご専門が教育心理学、カウンセリング心理学ということで、専門用語もありましたが、とても分かりやすく、時にユーモアを交えながらお話してくださいました。その中に出てきた「コーチング」ということについて、山谷先生の講演（以前のもの）等を紹介しながら、少し触れて見たいと思います。

「みなさんは、答えを先に言ったり、指示命令型のコミュニケーションで子育てをしていませんか。それはそれで大切な場合もありますが、指示命令型のコミュニケーションばかりではなく、問答型のコミュニケーションを上手に使うというのが、コーチングの極意です。答えを言うばかりではなく、子どもたちに問いを持たせる問答型コミュニケーションが、子どもに考える力を付けさせることにつながります。スポーツでコーチングを採用したのは、イチローを育てた仰木監督です。コーチングによる指導を受けた選手は、そうではない選手より、スランプから脱出する期間が短くて済んだと言われています。指示命令型のコーチは、「こうしなさい」「あーしなさい」と選手に伝えます。しかし、仰木監督は、イチロー自身にメニューや練習を考えさせて、実行できるように支援したそうです。コーチングの極意は、指示命令型から問答型のコミュニケーションに変えること、つまり、問いかけることで、その人の潜在的な可能性を最大限に発揮できるように支援することです。」と語っています。

そして、コーチングの活用ということで、○「活動や努力を認めてあげること」、その子の能力や努力をきちんと見るような関わり方をすること、○丁寧な言葉、長い言葉を使うこと、○その子の夢や希望をその子の個性と結び付けて応援してあげること、○子どもの思いや気持ちを汲み取って接するこ

と、などを挙げています。

◇「どうせ僕なんて、勉強してもムダだ……」「そんなことないよ。あなたはやればできるのだから、大丈夫よ。自信をもちなさい。」

コーチングの専門家である菅原裕子さんが言うには、この対応は正しくないそうです。自信をもたせようとする方向性は間違っていないが、子どもの言葉を否定しているからだそうで、コーチングでは決して否定せず、ありのままを受けとめることがスタートラインだそうです。

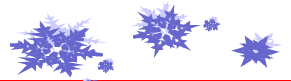
○同じ目線で：「そう、自信を失っているの？それは辛いよね。何かあった？」このように同じ目線から、対話を通して、子どもが自分の考えを整理し、前向きな気持ちを取り戻すことを支援するのが、コーチングのスタンスです。

○親の思いのままに動かそうとしない：「理想通りにいかないよ、子どもを叱って関係を悪化させたりするケースがありますが、こうしたケースでは、自分の理想に子どもを近づける子育てが“子どものため」と、親自身が信じ込んでいることが問題を根深くしています。しかし、そんな理想的な子どもがいるはずはありません。親子とはいえ別の人間ですから思いのままに動かせることもありません。」

○目と心と話さない：思春期の子どもからは、目と心を離さないことが大切です。その上で、子どもの話を十分に聞くことが大切です。

いかがでしょうか。何かと生きづらい世の中、人と人との関わりが希薄になっていると言われて久しい現代社会において、AIの時代、Society5.0などと形容されている未来社会を生きていくことになる子どもたちをどう育てていったらよいか。学校、家庭、地域社会が一つになって取り組んでいかなければならない大切な重い課題ですね。

もうすぐ師走です。安全と健康管理を徹底し、今年の締めくくりに向かいます。



ブックフェスティバル 11月12日(火)



あそぶっくによる人形劇(低)、国際交流員による読み聞かせ(高)が行われました。また、道立図書館の2千5百冊もの本が並べられ、1人3冊借りることができました。

サンドブラストグラス制作体験 11月12日(火)



PTA文化部主催にサンドブラストグラス制作体験が行われました。本校のPTA会員でもある北島陽子さんを講師に迎え、オリジナルグラスに挑戦。完成した作品は見事な出来映えでした。

授業研究会 11月5日・12日・25日・27日



6年1組で図画工作、6年2組で社会科、1年2組で国語科、5年生で外国語活動、4年1組と3年2組で道徳の授業を他校の先生方に公開しました。皆で授業改善を行っています。

5年農業体験 (籾摺体験) 11月19日(火)



6月に田植え、10月に稲刈りを行い、いよいよ精米です。白米にするために、すり鉢に玄米を入れて、棒で擦る昔ながらの作業も体験しました。

地域参観日 11月20日(水)



子どもたちの学びの様子を多くの方々に観ていただきました。フェスティバルでは、幼児センターくま組さん・インターの児童が来校してくれました。

赤い羽根共同募金活動 11月18日～22日



児童会を中心に、一生懸命募金の呼びかけを行っていました。少しでも地域に役立てることができるよう頑張っていました。

★読書月間・・・本を読もう★



11月は読書月間でした。「先生！！おすすめ本の紹介」「読み聞かせ」等、読書に親しむ取り組みを学年や学級で行っています。本に興味を持ち、良い本に出会えればと考えています。

★冬の準備をお願いします★

- 気温、天候にあった身支度を!**
朝の登校時にポケットに手を入れていたり、フードを深くかぶったりしている児童が見られます。手袋や冬用の帽子を身につけ、普段から危険を回避するために気を付けることをご家庭でも御指導をお願いします。
- 交通事故に気を付けよう!**
雪道では車は急に止まれません。横断歩道を渡る時の左右確認、また、道路では雪玉は「投げない・持たない・作らない」ように指導しています。ご家庭でも御指導をお願いします。

嫌な思いアンケート結果報告について

11月に行われたアンケート結果につきまして次のとおりご報告いたします。

①児童設問「あなたは、今年の4月から今日まで嫌な思いしたことがありますか。」に対して「あります」と答えた児童は、254人中84人。「あります」と答えた児童、現在は解消しているが50人、今なお嫌な思いをしている児童が34名でした。教育相談では、担任を中心に全児童から聞き取り、話し合いや指導を実施しました。今後も引き続き、児童に声掛けをしたり、様子を観察したりして、学級全体に対して定期的に指導・支援をしていきます。

②児童設問「どんなことをされましたか。」では、「悪口・からかい・冷やかし」「仲間はずれ・無視」といった言葉によるものが52%と半数にのぼっています。不適切な言動については、その場で指導するほか、道徳教育の一層の推進、そして児童主体の自治的活動(児童会)として友達を大切にする取組を今後行っていきます。

③児童設問「今、あなたが嫌なことをされて困った時に、だれに相談しますか。」に対しては、「父と母」と「学校の先生」で60%でした。しかし、6%の児童が「誰にも相談しない」と答えています。今後も教職員一人ひとりが児童と多くの関わりを持ち、改善に努めていきます。保護者の皆様におかれましては子どもに関わる時間を作っていただき、学校であったこと、友だちとのことを話し、困った時には相談にのって頂きますようお願いいたします。学校でもどの子も安心して悩み事を相談して解決することができる環境を整えていきます。

今後もお気づきのことやご相談がございましたら気軽に学校までご連絡ください。